

第1回 中野市行政改革推進委員会 会議録（概要）

日 時	令和6年5月15日（水）15：00～16：10
会 場	中野市役所5階 会議室 52・53
出席者等	【正副会長】 涌井会長、平野副会長 【委員】 関委員、波切委員、高橋委員、長島委員、小林委員、西野委員、井藤委員、竹内委員、清水委員、高木委員 【市】 湯本市長、栗林総務部長 【事務局】 阿藤企画財政課長、池田企画財政課長補佐、江澤主事 【傍聴者】 なし 【報道機関】 北信ローカル、テレビ北信
欠席者	【委員】 市川委員
次第	1 開会（13名中12名出席、過半数の出席者有りのため会議成立） 2 市長あいさつ 3 会長の互選について 4 協議事項 （1） 第4次中野市行政改革集中改革プランについて （令和5年度実績報告・令和6年度目標設定） 5 その他 6 閉会
資料	資料1 中野市行政改革推進委員会条例、委員名簿 資料2 第4次中野市行政改革集中改革プラン （令和5年度実績報告・令和6年度目標設定） 参考資料 中野市行政改革大綱

- 1 開会（総務部長）
- 2 市長あいさつ
- 3 会長の互選について（仮議長：平野副会長）
会長に中野市区長会の涌井純生委員が互選される。
- 4 協議事項（議長：涌井会長）
 - (1) 第4次中野市行政改革集中改革プランについて
(令和5年度実績報告・令和6年度目標設定)

（資料1）第4次中野市行政改革集中改革プラン（令和5年度実績報告・令和6年度目標設定）について説明。

【委員】

取組実績として、こんなことを導入しました、こういうことが出来ました、ここが検討課題として残りましたという形であるが、進捗管理シートを見た時に、実績としてやった事実は、記載してありますが、その効果というようなものが、個人的によく見えなくて、こんなに経費や事務量を削減しました、こんなものを導入しました、その結果として、こんな効果が、市民に向けて得られましたとか、文面には書いてあるものもありますが、一方で市の財政なり限られた職員の適正配置の観点から見てこんな効果が見込まれるとか、例えば人的余裕ができて、これをやっていくことによって、財政的にもこういうことが見込めますとかですね、そういう観点で取りまとめというか、そういうものがあるといいなと思います。

現行のプランについても、3年～7年の5年計画ですから、既に折り返しを過ぎ、後半の方に入ってきている中で、あと2年でどうするのかっていうところが、なんとなく焦点が見えてこない。それぞれの部署では一生懸命やっているとありますが、このまま令和7年で終わった時に、全体として、やりっぱなしで終わってしまうような印象を感じるので、工夫をいただければと思います。

【事務局】

ご指摘いただいたとおり、それぞれのプラン項目にも、しっかり明確な目標数値があって、数値的に実績を示していければ、よりわかりやすい部分もあるため、反省もしております。

また、この集中改革プラン自体が市民の生活に直接関わるプランっていうものが、実はあまりなく、例えばクラウドサインの電子契約に関しては、事業者にも直接的な

メリットがあったりもしますが、本プランに関しては、経常収支比率や基金残高、市の借金なり、そういうもの自体が減少しましたよとか、そういったところに反映させていくのが、今回の集中改革プランです。委員の皆様には、追って分かりやすく、例えば基金残高は増えました、十分健全な額を維持していますだとか、市の借金である市債残高は大きく減らすことができたことなどを、改めて皆さんへお示しできるものをお示ししていきたいと思います。

【委員】

職員の皆さんはプランに取り組むにあたって、何のためにやっているのかよく分からないのではないかな。例えば、電子契約にしても、じゃあそれは市の職員の方への負担軽減になっているのかを示していければ良いのではないのでしょうか。

例えば、なんでもかんでも電子化するなど、それはそれで間違っていないと思いますが、様々な取り組みを進めて行く上で、動機付けが最も重要だと思っていて、プランも折り返しを過ぎているため、そろそろ出来ること、出来ないことがもう明確になってきていると思うので、そういう評価も含めて、市の中で検証するにあたって、そういうものを確実にアウトプットされた方が、より良い方向に行くのではないのかなと思っております。

【事務局】

電子契約についても、職員の削減を目的にしているわけではなく、例えば DX の推進により事務量が軽減されて、事務担当者の仕事が間違いなく 0.1、0.2 は減って来るわけです。その浮いた 0.1、0.2 をどこに振り向けて、市民サービスのために何にプラスになっているのかなどは非常に見え辛く、大変もどかしく思っている。これは庁内でも議論して行かなくてはならなくて、ここ数年間、大きな額を DX 推進のために使って導入している以上、どういう効果があったのか、費用対効果も含めて、数字で目に見えてこない部分があれば、予算的な使い方を改めて行かなくてはならないと考えている。

【委員】

他の委員さんの意見を踏まえ、プランの目標を掲げて、それに対する現段階での効果とか実績とかっていうのはすごい気になりました。行政の事務作業において、RPA とか DX 推進っていうのは、もちろん必要だと思います。ただ、本プランの策定当時のことは当時の委員でないと分からないため、結果が出ているものについては、具体的な効果を見える化して欲しいと思います。ちなみにこの委員会の議事録については残っているのか。

議論をしていく中で、必ず意見が出るとは思いますが、その意見に対してのフィー

ドバックを、例えば次回の委員会の冒頭などで、していただいた方が、確実に PDCA サイクルが回っていくと思いますので、工夫をしていただければと思います。

【事務局】

委員さんのご意見のとおり、効果の見える化をしっかりと図らなくちゃいけないと思いますので、しっかり努めてまいりたいと思います。また、会議録については、ホームページでの公開以外にも、各委員さんへ直接お送りするようにいたしますので、よろしくお願いをしたいと思います。

【委員】

10 頁のテレワーク等の導入についてですが、令和 5 年度の取組評価は「C」という形になっていて、形式的には遅れているという評価をしながら、検証課題は「特になし」というのは、記載の仕方に無理があるのではないかと。遅れている理由は必ず何かがあって、それがまさに検証課題ではないかと。

また、15 頁のアウトソーシングについて、以前新聞に国の補助金が打ち切られたことについて報道されていたが、このプランへの影響はあるか。

【事務局】

テレワーク等の導入についてですが、これについては、実際に使われてはいるんですが、正式な実施要領の策定だけが済んでおらず、業務によってはテレワークが出来る部署とそうでない部署がどうしても出てくるため、正式な実施要領の策定には及んでいない状況でありますので、取り組み評価を「C」とし、検証課題については、単純に遅れている意味で「特になし」という表現をさせていただいておりますが、令和 3 年度の検証課題にもありますとおり、テレワーク推進に当たり、職員の意識改革及び規律確保のための運用ルールが必要ということで、ルール作り、実施要領の策定に影響が出ているので、令和 3 年度の内容に記載されております検証課題が、そのまま令和 4 年、令和 5 年と同様の内容でございますので、修正をさせていただきまして、この現状について公表してまいりたいという風に思います。

また、アウトソーシングに係る国からの交付金については、先に議会の方にも説明をさせていただいておりますが、今月中に結論を示し、説明をさせていただく予定であります。プランの進捗については、今のところ影響ないと思われます。よろしくお願いいたします。

【委員】

感想というか、全体を見たときに、私どもも、こういった RPA であるとか、あと契約の電子化というのを進めている中では、やっぱり似たようなことをされてい

て、先ほどの電子化率なんか見ても、かなり効果は上がっているのかなっていうのは全体の感想としてあります。そんな中、我々も社内で色々な総務、人事を含めて管理のやり方というのを変えておまして、例えば会議のやり方なんかも色々変えている中で、参考としてお伝えします。今回のような、事前に資料を配られるような会議の場合は、本日は課長さんが1つ1つ丁寧にご説明をいただきましたけれども、例えば記載内容の説明については、本当に注意が必要なところは、丁寧にご説明いただくとしても、委員の皆さんに事前にご覧いただいている前提ですが、議論にもう少し時間が割ける形の方が、より建設的な話になるのかなという、そんな風に思います。あと、先ほど職員の事務量について0.5とか削減できたものをどこに向けていくかっていうところは、我々民間の企業としては、人口が減っていく中で、もう5年後、10年後、職員がこれしかないっていう制約条件を仮に置いて、それに対し、どうやっていくかっていうアプローチをしています。

中野市さんにおいても、全体の人口が減ってきている中で、職員の人数を確保できるのかっていうところは、おそらくシミュレーションができていますと思いますが、そうすると、この課のこの人数っていうのは、もういない前提になった時に、限られた人数前でやっていくことで、そのへんの合理化も進むと思います。また、減った仕事量をどこに充てるかっていうことではなくて、これからの職員体制ではやれないことが今後、出てくるという前提で、対策を講じて行く方が、より効果的というかですね、より実務に即した改善が進むのではないかなというような、そんな感想を持ちました。

いずれにせよ、組織の大きさとか、やっていること自体が私どもと似ているところはありますね。我々としても参考になるところが大変多かったかと、そんな風に思います。あくまで個人的な意見としてはありますが、以上です。

【事務局】

大変有意義なご意見、ご提案をいただいたので、早速、今日のこの委員会の名前をお借りして、庁内の会議等についても、出来る限り会議で不要な説明資料を省いて議論に入っていければという風に、まず即実践していければと思いますので、どうもありがとうございます。

【会長】

私の方で1点お願いをしたいと思うんですけど、条例では、委員会の会議は、必要に応じて会長が招集するとありますが、ところが、今回の招集の依頼文書は中野市長の名前で出ているんですね、以前は会長名で依頼文書が出ていたかと記憶しておりますが、条例でも明記されている関係もあり、いかがなものか、というふうに思います。

ましてや、副会長が会長を代行するということにもなっておりますので、任期中でありますので、副会長名で出していただいてもいいのではないかと考えているんですけどね。

【事務局】

本日の会議は第1回目の会議でもあったので、市長名で招集をさせていただきましたが、次回の委員会からは、会長名により招集していきたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

それでは、本日ご審議いただきました、会議録や資料につきましては、公式ホームページで公表してまいりますけど、全委員さんの方にも、改めて会議録と資料を一部訂正させていただき、再度お送りしていきたいと思えます。

また、次回の行政改革推進委員会につきましては、10月頃に今年度の中間実績報告について説明をさせていただきたいと思えますので、先ほどご提案いただいたとおり、早めに資料を配布し、当日の説明は出来るだけ省き、議論に入っていけるような試験をまず、この行革の委員会自らやっていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

5 閉会（会長）

終了 16時10分